

令和3年度第1回あきる野市子ども・子育て会議における報告及び議題等に関する質問等及びそれに対する市の回答について

資料 1-2

No.	委員からの質問等	市の回答	担当課
1	多胎児家庭支援事業について ニーズの高い事業だと思いますので、積極的に推進していただきたいです。 この事業は国、都による事業ですか、市単独の事業ですか。 都内区部、市部(特に西多摩地区)でも同じ事業はありますか。	市の単独事業ですが、財源は国及び東京都の補助制度を活用しています。市では、補助基準内容を基に要領を作成し事業を実施しています。 なお、西多摩地区では、同じ事業をやっている所はありません。市部では武蔵村山市、小金井市、多摩市など、区部では杉並区、中野区、世田谷区などで行っております。	子ども家庭支援センター
2	ご存じかもしれませんが、多胎児家庭への支援に関しては、厚労省の調査研究事業(委託事業)があって、三菱UFJリサーチ&コンサルティングが今年3月に報告書をまとめています。こうしたものも参考になると思います。 (URL: https://www.murc.jp/report/rc/policy_research/public_report/koukai_210412/)		
3	「子ども食堂」についてあきる野市内で子ども食堂を運営している所を具体的に教えてください。	一団体が御堂会館(あきる野市草花3482-16)で不定期に実施しております。 なお、現在は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、会館で食事をするのではなく、配食を行っております。	子ども政策課
4	資料2の16(子ども食堂推進事業)、令和2年度実績取組状況を拝察し、臨機応変に対応されたことが素晴らしいと思うと共に市民の一人として感謝いたします。		
5	資料3 3. 幼児期の学校教育・保育 (1)保育所等利用待機児童数の推移、(2)保育所等利用申込率の推移、(3)待機児童の保護者の状況について別紙1のようなデータの整理をお願いしたいです。	資料として提供いたします。(別紙4)	保育課
6	質問ではないのですが、各項目ごとに進捗状況が分かりやすいと感じました。コロナの影響で中止、延期、難しくなっている事にも、人数の制限をしたり等、少しずつ取り組むことが出来ていると感じました。 その時期に必要な制度やサービスなので、利用したい方のためにも対応していく事が大事なんだと改めて感じました。		

7	<p>総合計画 2年度の実績及び評価について(資料2) 基本目標1 ①-1について 幼児教育アドバイザーの配置についてどのような検討がされていますか。 来年度の予算要望に入りますか。</p>	<p>質の高い幼児教育・保育の環境を提供をするために、幼児教育アドバイザーについて情報収集をしている状況でございます。そのため、令和4年度の予算計上は予定しておりません。</p>	保育課
8	<p>総合計画 2年度の実績及び評価について(資料2) 基本目標1 ②-6について 就学支援シートの配布家庭266件というのは、幼保が子どもの成長の様子から提出した方が良いと判断して保護者に配布した実績ですか。 また、その結果の回収、作成率が40.9%になった理由は何でしょうか。</p>	<p>・「就学支援シートの配布家庭数266件」とは、あきる野市在住の方が通っている市内外保育園・幼稚園に配布した枚数です。 ・「作成率が40.9%」になった理由は、配布枚数に対して回収した割合を計算した結果です。 算出方法に誤りがありました。 正しくは、新1年生全体に対して就学支援シートが提出された割合です。 (正)就学支援シート受付109件、新1年生638人、作成率約17.0% $109 \div 638 \times 100 = \text{約}17$</p>	指導室
9	<p>総合計画 2年度実績、3年度進捗状況について(資料3) 計画 第3章 2 将来人口 (3)0~5歳の年齢階級別人口の推計 今回の資料の対象外となっていますが、すべての施策の「量の見込み」、「確保の内容」を議論する前提となる基礎データですので、現状を確認するとともに、すでに推計値と違ってきている場合は、その理由を確認して必要に応じて推計を補正する、あるいはその数値を共有して議論していく必要があるのではないのでしょうか。(昨年度は最新資料が配布されています) 参考に、令和2年、3年の実績値を入れたものを添付します。(別紙2)残念ながら推計値より出生数(0歳)はかなり減少しています。</p>	<p>令和3年度の実績を掲載した最新の資料(別紙5)をお送りさせていただきます。 人口推計の修正については、翌年度に行う計画の中間年の見直しの検討項目とさせていただきます。</p>	子ども政策課
10	<p>総合計画 2年度実績、3年度進捗状況について(資料3) P3 (2)需要量の見込み 表の令和2年度(実績)の2号認定 1,104人には、新2号児も含まれていますか。その場合は、今後の施策を検討するために欄を分けて表記していただきたいです。(P15の(8)一時預かり事業では区分されています)</p>	<p>2号認定1,104人には、新2号児は含まれておりません。新2号児については、幼児教育・保育の無償化制度の開始にあたり幼稚園における預かり保育事業を対象としていることから本数字には含んでおりません。</p>	保育課

11	<p>総合計画 2年度実績、3年度進捗状況について(資料3) P15(8)一時預かり事業 表の「幼稚園在園児対象の預かり保育事業」について「1号認定による利用」と「1号認定(新2号)による利用」に区分されているのは分かりやすいのですが、令和2年度の量の見込みの人数については、どのような根拠に基づいて算出したのでしょうか。 2年度については、コロナ対応で、4月から休園したり、預かり保育を閉鎖した時期があることや、その後も利用自粛を要請してる園もあり、この人数については、丁寧な検証が必要だと思います。 また、新2号児が増えたことで、幼稚園、特に認定こども園の負担が大幅に増えており、保育者の確保も難しい状態で、利用人数の比較だけで単純に「供給体制は確保できております」という状況ではありません。 今後の会議の場で、この現状、課題等について情報共有、対応策を議論できるようお願いします。</p>	<p>計画当初において、令和2年度の量の見込みにつきましては、令和元年度の新2号児の人数を元に、月17日程度利用すると仮定し推計いたしました。</p>	保育課
12	<p>総合計画 2年度実績、3年度進捗状況について(資料3) P15(8)一時預かり事業 表の「その他の一時預かり事業 保育施設等」についてコロナ禍の影響で、13で書きましたとおり、幼稚園では利用制限等の影響もあり利用者は減少していますが、保育施設等は増えている理由は何でしょうか。 潜在的な需要は大きいと思いますが、市内に4園ある幼稚園型認定こども園では、認定申請時の提供する「子育て支援事業」として「一時預かり事業」が定められているにもかかわらず、まだ実施できておりません。 すみやかに事業が実施できるよう検討をお願いします。</p>	<p>令和2年度の増加については、特定の利用者が家庭の状況により利用する日数が増えたことによるものと分析しております。 また、市内幼稚園型認定こども園においての実施については、各施設と調整し検討いたします。</p>	保育課
13	<p>令和2年度進捗状況におけるB評価は、そのほとんどが新型コロナウイルス感染症拡大に伴うものでした。やむを得ないことではあるものの、今後は感染症が拡大したとしても一定のサービス提供ができるような体制を検討すべきではないでしょうか。</p>	<p>対面でなくても実施が可能な事業に関しては、書面及びオンラインで、対面での実施がやむを得ない事業に関しては新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を徹底して実施できるように検討していきます。(子ども政策課) 乳幼児健診や各種相談・教室等の母子保健事業については、人数制限や予約制などを取り入れ実施をしております。今後も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を徹底して、さらに、必要な方が利用しやすい体制を検討していきます。(健康課)</p>	子ども政策課 健康課
14	<p>ヤングケアラーについての課題が様々取り上げられています。あきる野市では子ども子育て支援の中での取組について知りたく思います。</p>	<p>ヤングケアラーの特徴として、自分自身がヤングケアラーだと気付かないことがあります。周囲がヤングケアラーを早期に把握し、必要な支援につなげることが重要であり、市の取組として、市民の方への周知を本年8月、あきる野市子育て応援サイトにおいて行いました。また、小中学校や幼稚園、保育園にヤングケアラーのチラシ(一般社団法人日本ケアラー連盟発行)を配布し、ヤングケアラーかもしれないお子さんがいた場合は、子ども家庭支援センターへの相談をお願いします。</p>	子ども家庭支援センター

15	<p>教育・保育現場で障がい児や境界線児を早期発見することにより、早期対応に繋げることはたいへん重要である。</p> <p>しかし、初期段階において保護者の理解や協力を得られず、実際の対応が数年遅れることで、当該児が深刻な学習困難あるいは適応困難に陥るケースがままあると思われる。</p> <p>多くの場合、教育・保育現場のみでの対応には限界がある。</p> <p>障がい児や境界線児が早期から適切な援助を受けられるよう、専門家チームの機動的早期介入と継続派遣を可能にする体制作りが求められる</p>	<p>教育・保育施設では、特別な支援が必要な園児等について、巡回相談員による巡回を行っております。今後も適切な時期に適切な支援が受けられるよう関係機関との連携を行ってまいります。</p>	保育課
16	<p>今まで予想しなかった新型コロナウイルス感染症は、子どもたち(障害児も含め)の心身の発達に大きな変化を及ぼしていることが研究、報道されています。今後は新型コロナウイルス感染症との共存を視野に入れての子育て支援を進めなければならないと思います。</p>		
17	<p>あきる野市としての総合的な「子育て支援」(子育て家族転入促進)施策の方向性とPRについて</p> <p>急激な人口減少社会を迎えて、全国の自治体では幼児人口の減少を緩和するために、独自の子育て支援施策をネーミングして広くPRしています。</p> <p>あきる野市も東京でありながら地方と変わらない厳しい状況を迎えております。すでに総合計画は策定していますが、その内容をさらにブラッシュアップするなどしてPRしていく必要があるのではと思いますが、如何でしょうか。</p> <p>隣の福生市ではすでに積極的にPRし、実績も出ています(「西の風」記事参照)(別紙3)</p>	<p>あきる野市においても、「子育て応援サイト・アプリのキッズ」の運営をしており、総合計画をはじめ、あきる野市で行っている事業等の情報について広く周知しております。</p> <p>また、本年9月にはより多くの市民に情報を知ってもらうために、市内保育施設に「子育て応援サイト・アプリのキッズ」のチラシの配布をしておりますが、今後も市の施策を知ってもらうための周知の方法等を検討していきます。</p>	子ども政策課
18	<p>企業の稼働開始による影響について</p> <p>市内に建設されている当該施設が、来年1月から予定どおり本格稼働した場合の地元での雇用(母親)、社員の転入等による子育て施策に対する影響について、市はどの程度推計し対策を講じているのでしょうか。</p>	<p>現状、従業員が1,000人程度になるという情報しかありませんので、推計、対策を講じられない状況にあります。</p> <p>今後、新たな情報があれば、対策を講じていきます。</p>	子ども政策課